

地域に根差す 防災組織



自主防災組織

自主防災組織とは市民一人一人が「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもと、自主的に防災活動を行う組織のことをいいます。市内には82の自主防災組織があり、地区ごとの避難訓練を開催したり、防災に必要な資器材を準備したりと、もしもの時に備えています。

女性防火クラブ

女性防火クラブは家庭での火気使用器具の取り扱い指導や地域住民の防災意識の高揚、防火体制確立のための広報宣伝などを行っています。火災を撲滅し、明るく住みよい藤岡市を目指しています。



民生委員児童委員協議会

地域住民が安心して暮らしていけるよう、住民と関係機関を結ぶ「つなぎ役」として生活保護・障がい・子育て・児童・介護などさまざまな相談に応じています。平常時より地域における災害時要支援者の把握と支援ネットワーク作りを進めています。

■地域の助け合い

全ての地域にすぐに助けに行くことは難しいのが現状です。そこで重要となるのが、普段から顔を合わせている近隣住民と互いに協力し合いながら、防災活動に取り組む「共助」です。

6400人以上の死者・行方不明者を出した阪神淡路大震災では、倒壊した建物から救出された人の約8割が家族や近隣住民によって救出されたという調査結果があります。

大規模災害の直後には人命救助や初期消火活動は、隣近所や地域全体で力を合わせて行う、また避難する際には近隣住民に声を掛けるなど相互に助け合う「共助」が重要な役割を果たします。地域のつながりの大切さを改めて考え、いざというときに声を掛け合える顔見知りの関係をつくるのが大切です。

市内には地元住民により組織された「自主防災組織」「女性防火クラブ」「民生委員児童委員協議会」「消防団」などがあります。もしもの時に協力し合える地域のつながり、また自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちが多くの人を救うきっかけとなります。



災害に備える

地震や風水害などの災害は突然襲ってきます。近年では毎年のように全国各地で集中豪雨などの災害が起こっています。自分や家族の身を守るには、まずは自分自身の行動が重要です。いざという時のために日頃から防災について考えてみませんか。

問い合わせ 地域安全課(☎27444)

■災害意識の希薄化

群馬県は「自然災害が少なく、安全だ」とよく言われています。藤岡市においても平野部の年間降水量は約1000mmと比較的少なく、冬の降雪もほとんどありません。そのため「災害の少ないまち」と思っている人も多いのではないのでしょうか。しかし平成23年の東日本大震災、26年の記録的な大雪被害、28年の熊本地震、先月の大阪府北部で発生した地震など近年、想定を超えた自然災害が発生しています。今まで大きな災害が起こっていないからといって災害の備えを怠ってはいけません。

市内には、烏川・神流川・縮川・鮎川などの河川があり、市域の約7割を山間部が占めていることから、

■自助・共助・公助

風水害や地震による災害が発生しやすい環境にあります。こうした災害による被害を最小限に食い止めるには、日頃からの準備と心構えが必要です。

大規模災害は突然襲ってきます。災害時にまずやらなければいけないことは、自分の身は自分で守る「自助」です。災害時はパニック状態になることが予想されます。いざという時に、すぐに避難できるようあらかじめ避難経路や避難場所などを家族と確認しておきましょう。また災害時には広範囲の地域が被災し、多くの人が助けを必要とします。そのため、行政の対応(公助)には限界があり、